



専門基礎科目 人文科学系科目

授業科目名	講義等の内容
日本語理解論	文字言語を介した多様なジャンルの文章(説明文・論説文・物語・小説、詩歌、古典)の内容を的確に読み取り、文章の構成や表現の特色を把握する。これとともに文章に描かれた人物、心情、情景、思想等を読み味わう方法を習得する。
日本史概論	日本の歴史を学ぶことは、我が国への理解を深めるのみならず、近隣諸国との関係性を理解する上でも不可欠である。また、歴史を学ぶことで現代を相対化する視座を身につけることも可能となるだろう。この講義では、日本史の全体像を把握することを目指す。
日本文化概論	原始・古代から現代までの我が国で展開した信仰・芸術・学問などについて、歴史学の立場から概観する。過去と現在との相違点・共通点を考えることで、歴史・文化を客観的に捉える力を身につける。
文化人類学	文化人類学は人類の生活様式・活動・思考法を、多様性と普遍性の両面から研究する学問である。本講義では、文化人類学の基礎的概念や理論を学び、多様な世界を対等なものとして捉える視点と態度を身につけていく。
人間関係論	人間関係論では個人と集団の相互作用過程について扱う。特にグループ・ダイナミックス(集団力学)の知見に基づき、日常的な人間関係の内に潜む社会的影響や人間行動の法則性について検討する。また、本講義ではグループ・ワークを通して、対人関係の諸課題を把握し適切な集団運営を行うためのスキルを体験的に学習することを目指す。
日本語表現論	本講義では、日本語でのインプット・アウトプットのスキルを高め、他者とのコミュニケーションを意識した日本語表現力の養成を目指す。具体的には、様々なテーマでのワークショップやディスカッションを行い、テーマについて自分なりの視点を持って考えそれを他者に向けて分かりやすく伝えること、及び、他者の考えを自分なりに咀嚼し理解することのトレーニングを行う。
世界史概論	本講義では、先史から現代までの世界の歴史を扱う。歴史的な事象を現在とは断絶した出来事と捉えるのではなく、その繋がりに注目する。現代に繋がる世界の歴史的経緯や体系について多角的・創造的に捉える力を養う講義内容となっている。

専門基礎科目 社会科学系科目

授業科目名	講義等の内容
経営統計学	<p>入門レベルの統計学の知識を用いて、経営に関連する事柄を学ぶ。統計学はデータから分析対象の状態の記述、全体から一部を抽出、抽出データから全体の状態の推定、仮説を検証する。経営統計学では、経営に関連する統計処理を学ぶ。製品の品質バラツキ、抽出データから全体の質の推定、2つのグループ間の比較などである。</p>
観光学概論	<p>本講義では、観光学を学ぶために必要となる基礎的な知識の理解と習得を目指す。観光は多様で複合的な人間行動であり、その産業は様々な業種から構成される裾野の広い複合産業である。世界各地においても多様な観光資源が、多種多様な旅行者を惹きつけてやまない。本講義では、(1)観光学基礎の理解、(2)観光旅行者の視点、(3)観光デスティネーションの視点、(4)その他観光を取り巻く環境について理解を深めることとする。とりわけ、沖縄においてはその立地条件や自然資源により観光を学ぶ適地であるので、適宜、沖縄の事例を通して観光産業について修学する。</p>
観光学総論	<p>観光学の分野は、経済・経営・社会・歴史・自然・環境・文化・交通・都市計画・健康など様々な分野から構成される非常に範囲の広い学際的な学問分野である。本講義は、観光学概論の発展科目として観光学の基礎についての理解を深めることを目的とし、観光学の体系、方法論を総論的に学ぶ。また、本講義は観光に関わる教員の研究分野をもとに、観光へのアプローチについてオムニバス講義の形態で提供する。</p>
地域研究方法論	<p>本授業では、「地域」を主として外国の地域を中心に据えながら、①国際関係学における地域研究(＝外国研究)の方法論について検討し、②足元の地域と海外の地域を比較し、フィールドワークを行った成果を通じて、普遍的に「地域」を把握し、研究する手法を学んでいく。</p>
社会調査法	<p>この授業科目は、現地調査やアンケート調査によって科学的データを収集し、分析し、意思決定する技術を身につけることを目的とする。具体例をまじえて調査計画、調査票作成、対象者の選定、実施に至るまでのプロセスについて受講者の参画を積極的に求め、社会調査の基礎と実際について理解を深める。</p>
経営情報論	<p>現代の企業は厳しい競争環境の中で生き残りをかけた戦略を展開しており、経営情報システムはますます重要になってきている。企業や組織においては、急速に進歩している情報技術やインターネットの活用を行い、競争の優位性を達成することが重要な課題になってきている。当講義では経営情報論の基礎理論から入り、経営情報システムについて学習し、さらにインターネットによるビジネスや、最新の情報技術についても学習する。</p>
地域社会論	<p>在日韓国・朝鮮人は日本における最大のマイノリティ集団の一つである。当該社会は、一方では世代交替の課程で在日韓国・朝鮮人としての固有のエスニック・マーカーとなるものを衰退させながら、他方ではマジョリティ社会である日本社会への適応の度合いを深めているのが現状である。この授業では、当該社会の形成過程の歴史を入念に辿りつつ、特に、在日若者世代の揺れ動くアイデンティティの現状にスポットをあてて学ぶ。</p>

授業科目名	講義等の内容
倫理学	古代ギリシア・ローマといった西洋古代の倫理学を中心に扱う。この時代に花開いたアイデアは現在でも我々の思考の土台になっている。また、倫理学が始まった時代だからこそ、思想の背後にある問いの一つ一つが鮮烈で、決して古びることはない。この授業では、一人の哲学者に複数回を費やして、丁寧に倫理想とその背景にある問いを紐解いてゆく。
経営学総論	企業の活動を理解することは、私たちの生活や社会、そして経済を理解することにつながる。企業という特定の領域を対象とする経営学の基礎知識を十分理解することを目的に進めていく。
簿記原理	複式簿記は会社経理に携わる人々はもちろん、経営者、職業会計人、企業アナリストに必須の知識であり、また今日の情報化社会に生きる我々の素養とさなっている。このような社会的要請に応えるために、複式簿記の基本的知識と技能を習得することを目的とする。具体的には、日々の取引の仕訳・元帳への転記から決算処理、財務諸表作成までの一連の流れを学習する。
ミクロ経済学	ミクロ経済学は、経済活動における意思決定を学ぶ。合理的と考えられている家計や企業が、限られた資源や所得の利用、お互いに情報交換を行わなかった場合や情報交換を行った場合に利益や幸福感を最大化できるかを学ぶ。また、非合理的な場合の意思決定の特徴を学ぶ。
民法と市民生活	私たちが普段何気なく過ごしている日常生活において存在する民法に関わる諸事象（商品の売買・アパートの賃貸借等の契約関係、家族制度、不法行為等）を主たる素材としながら、民法のしくみや基本原理（例えば、法的人格（権利能力）平等の原則、私的自治の原則、契約自由の原則、過失責任の原則等）について学習する。特に“法”を意識しているわけでもない普段の日常生活において、何気なく民法が果たしている重要な役割をなるべく分かり易くお話しして、民法に対する関心や市民としての法的責任感を涵養していく。
マクロ経済学	マクロ経済学は、一国経済及び一國経済と世界経済という目に見えない経済を、国内総生産（GDP）の仕組みを簡単な数式に置き換えて学ぶ。GDPの学びを通して、家計の消費、企業の投資、政府の活動や国際経済と私たちの生活との関係を学ぶ。
経済学総論	経済学総論は、経済学を俯瞰的に学ぶ。具体的には、経済学の成り立ち、時代変化と理論発展との関連、経済理論の限界との関連性、仮説と検証等である。具体的には、基礎科目であるミクロ家計学、ミクロ経済学、金融論、財政学、経済史及び経済思想の簡単に学ぶ。続いて、基礎科目と発展科目の関連を学ぶ。具体的には、ミクロ経済学と国際経済論、ゲーム理論、マーケットデザイン論、行動経済学、ミクロ経済学と地域経済学と産業連関論を学ぶ。応用科目では、産業組織論、経済地理学、空間経済学、経済政策、公共政策、社会政策、多国籍企業論、国際金融論、国際貿易論などを学ぶ。
社会心理学	この授業科目では、同調行動や援助行動などの著名な社会心理学的研究の成果を「道具的適応」という観点から捉え直し、なぜ人間の心に「社会性」が備わっているのか、その必然性について論証する。また、専門用語及び研究方法についても具体例をまじえて解説し、社会心理学の現状と課題を学ぶ。

I 建学の精神
II 学修について
III 履修計画の作成と登録制
IV 教養教育について
V 国際学部の概要
VI 国際文化学科の概要
VII 国際観光産業学科の概要
VIII 留学・資格等について
IX 諸手続き
X 学則・諸規程
XI 付録

専門基礎科目 自然科学系科目

授業科目名	講義等の内容
コンピュータ概論	本講義では、主にコンピュータそのものに焦点を当てて、情報システムにおけるコンピュータのハードウェアや周辺機器、OS、ソフトウェア等の仕組みや概念を理解する。
情報処理論	コンピュータ概論にて学んだコンピュータの基礎知識を基に、情報処理技術者としての知識を得るべく、情報処理全般の社会との関わりについて学習する。具体的には、情報システムの評価・運用と管理、社会における情報システムの考察、企業の業務知識とシステム化の啓蒙、情報ネットワークの種々の視点からの活用法などを学ぶ。
情報化社会論	情報化社会で仕事をするには、専門的な情報技術だけでなく利用者目線、業務、ビジネス、技術者倫理といった情報の社会的な側面についての知識も不可欠である。本講義では、「データ・情報・知識をどのように処理、管理したら良いか」という視点に立ち、広い分野ではあるが基本的な概念を学習する。
自然保護論	自然環境の保護・保全、生物多様性の保全及び持続可能な利用を図ること重要な課題である。これは、人間の活動がいかに自然環境を改変し、資源を消費し、廃棄物を放出してきたかを示すものである。本講義では、自然の実体についての理解を深め、自然保護について議論していく。沖縄の事例を示し、沖縄の自然、現状の課題等について理解を深める。
沖縄の天然記念物	生物を含めた貴重な自然物には、天然記念物として法的に保護されているものが多い。沖縄では、自然の構成要素の多様さやユニークさから、特色ある生物や生物群集及び地質・地形が少なくないが、島の面積が小さい割には国内他地域に比較して数多くの天然記念物が指定されている。それらの天然記念物を学ぶことは、「おきなわ」を理解する有効な方法の一つである。この講義では、沖縄の天然記念物を主たる対象として詳しく学習すると共に、その現状と課題を考察し、発展的で有効な活用と保護について共に考えたい。
島嶼環境論	主として自然地理学、地形学、地質学、水文学、気象学等の観点から島嶼環境の特徴を概説する。その上で、島嶼における人間活動との相互作用と、それによって生じる環境上の諸問題について講義する。これらを通じて、島嶼地域における望ましい人間と環境とのあり方について解説する。
情報と職業	本講義では、情報化社会において主体的に参画することができるような人材を育成することを目標とする。すなわち、社会人として自らの職業を考えるにあたり、情報と職業の関わり方、職業倫理の一環としての情報モラル等を包括した健全な職業観や勤労観を育成する。なお、「情報」の教員免許取得予定者は必須の講義である。

専門発展・応用科目（観光地形成科目）

授業科目名	講義等の内容
観光事業論	2年次を対象として、観光事業の考え方を体系的に学ぶ。観光学概論によって、観光の基礎的な知識を習得した学生に対して、これからの専門的な各分野への橋渡しの講義として、観光学を体系的に整理し、それぞれの専門的分野の概観を詳述する。受講生が観光に関する専門的講義に慣れるとともに、これから学ぶ観光学の全体像を把握し、観光開発や観光政策の基礎を理解することなどが講義の目的となる。
観光開発論Ⅰ	本講義では、国内的・国際的に汎用性のある観光開発の概念や仕組みを総論的に学ぶ。観光開発の目的を社会的更生の最大化とし、観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響をはじめとする開発と地域の関係に重点を置き、望ましい開発の理念と手法の説明を中心として講義を進める。「観光開発Ⅱ」及び「観光政策論」において扱う事例や観光開発の計画評価に必要な方法論を理解するための基礎とする。
観光開発論Ⅱ	観光事業論及び観光開発論Ⅰで学んだ観光開発の概念や仕組み、地域に与える影響などを基礎として観光開発及び観光振興の計画評価に必要な方法論を解説する。観光振興の目的や方向性、戦略などを解説し、日本国内を中心とした観光振興の先進的な地域を事例として取り上げ、理論と実践、現実の意味連関を論じる。
観光政策論	本講義は、観光学を学ぶ最後の総まとめとして、今まで学習した内容や、キャンパス内外で経験した内容を整理しながら、観光政策について学ぶ。観光政策は、観光の供給、需要の両面から、地域がめざす将来像(ビジョン)に向かっていくためのシナリオを作成する作業である。本講義では、観光政策の考え方と方法について、政策科学と観光学を基礎として理論と事例によって学習をすすめていく。
西欧経済史	中世から近代にいたる欧米諸国の経済発展についてみていく。その場合、なぜある国はいち早く近代産業社会への離陸をなしとげ、またある国はそれに遅れをとったのかについて考える。特に「富の源泉」、イノベーション、近代化、産業化をキーワードに欧米諸国の経済を比較史的に検討する。
地域経済学	これまで日本は、キャッチアップ型経済の中で国土利用とか、産業の最適配置という問題を国民経済の視点から考えてきた。しかし、経済のグローバル化、高度情報化（IT革命）の急速な進展に伴って中央集権的タテワリ行政システムの見直し、地域住民のニーズ、地域の経済自立のための施策等、地域からの視点（「地方の時代」）がより重要になってきている。本講義では地域の経済的自立の条件とは何か、産業集積のメカニズムとは、競争優位を創出するためには何が必要か等、経済学の基本的概念、理論を用いて地域経済について考えていく。
観光経済学	観光は経済学、経営学、マーケティング論、ホテル・レストラン経営論、交通論、社会学等と多かれ少なかれ関わっており、極めて学際的な研究領域である。本講義においては観光を経済学的視点から、経済学の基本的概念、理論を用いて複雑な観光現象を分析し解明する事を試みる。

I 建学の精神

II 学修について

III 履修計画の作成と登録制度

IV 教養教育について

V 国際学部の概要

VI 国際文化学科の概要

VII 国際観光産業学科の概要

VIII 留学・資格等について

IX 諸手続きについて

X 学則・諸規程

XI 付録

授業科目名	講義等の内容
地誌学	<p>地誌学とは地理学の一分野であり、地域を自然、歴史、文化、生活などの観点から「総合的」に把握・記述し、各事象の複雑な関係性の中から地域特性を理解する学問である。この講義では日本の自然的、人文・社会的諸特性を概観したあと、各地域の自然や歴史、文化、風土、観光を地図や図表、写真等を多用し説明する。</p>
観光地理学	<p>観光地理学は、観光資源が存在する地域を対象として、観光活動が行われる地域の構造や成立過程の解明が主たるテーマとなる。「観光地」をひとつの地域として捉えれば、そこに観光資源が分布し、開発の沿革や観光産業の発達過程と立地、地域の歴史や生活、文化などとの関わりなどの観光地域論的アプローチが可能となる。</p> <p>本講義では、観光資源の分布を概説し、歴史的な観点からの観光地域の形成過程や観光産業の立地に関する理論を説明する。具体的には、日本各地の観光地の事例を取り扱う。観光地理学的な考察、地域特性や変容から読み取る観光地の方向性などの議論まで高めたい。</p>
観光資源論	<p>観光資源の概要を解説し、観光地における資源マネジメントの理論を説明する。具体的には、世界または全国的な観光資源の事例を取り扱い、観光資源に関する文化及び歴史的な背景と特徴を概観し、まちづくりや観光振興における活用方法を考察する。</p>
自然地理学概論	<p>現在の地球はどのような歴史的変遷を経て成立してきたのか。地球の誕生からプレートテクトニクスによる大陸の離合集散、第四紀の氷河性海水準変動、自然環境と人間の関わり合いの歴史を通して学ぶ。自然環境の具体例として、日本列島の火山、山と川、森林などの「風景」が、どのようにしてできたのか理解する。また、自然環境の開発と保全、災害、資源利用など、自然と人間の関わり方について学ぶ。現在の沖縄の自然環境と、その開発・保全の問題についても考えていきたい。</p>
観光行動論	<p>力動的な人間行動全般の中で観光という行動のメカニズムを理解する。特に、本講義では人間行動としての観光行動を行動科学的側面から構造を把握することを目的としている。内容としては、観光者心理、観光者の消費行動、観光者の空間体験や異文化体験、交通行動、情報行動等である。また関連する諸学問分野としては心理学・統計学・消費者行動論等の基礎知識を理解する。</p>
観光心理学	<p>観光者は、どのような動機に基づき何を求めて旅に出るのか、訪問先では何に対しどのような感じるのか、旅の経験をどのように評価し、またその評価は次の旅行と関連しているのか、このような観光旅行者の心理について理解することは、観光という事象を理解する上で重要であるといえる。当科目では、観光現象を社会的な人間行動の形態として、その行動の理由や仕組みについて心理学的な側面から理解することを目的とする。具体的には、観光旅行の過程について取り上げ、旅行前、旅行準備段階、旅行中、旅行後の一連のプロセスについて理解を深めることを目指す。本科目については、講義形式での提供となる。</p>
イベント事業論	<p>観光客誘客の手段として、イベントが果たす役割について学ぶ。併せて、イベントを開催するためのコンセプトの明確化、イベントの計画、準備・実施・運営方法について学ぶと共にイベントのもたらす影響について考える。本講義では知識を学ぶだけでなく、実際にイベントに参加し、対象として観察・分析することが要求される。</p>

授業科目名	講義等の内容
国際コンベンションビジネス	コンベンションビジネスとは何か、コンベンションビジネスが立脚するために必要な要素や昨今話題に上るMICE、観光産業との関係、コンベンションビジネスによる地域への波及効果について本講義を通して学習する。また、国内外の事例などを通して、地域におけるコンベンションビジネスについて考える。
観光関連法規	観光産業は様々な業種・業態から成る複合体であり、その範囲は広く、関連する法律や規則等も多岐に渡る。本講義においては、観光の分野における代表的な法律・規則・条令等について考える。併せて、規範・規制的な側面を有する法律と計画性を有する法律の差異や法律と観光振興の関係について考えると共に、法律や規則の果たす役割について学ぶ。
観光調査法	観光現象に関わる基本的な調査方法を学んでいく。調査には大きく分けて質的調査と量的調査に分けられる。「観光」という現象を理解する際に、質的・量的調査の特性を理解した上で調査を実施しなければ、意味のない結果となってしまう可能性が高い。本講義では質的調査と量的調査の特徴や意義を説明した上で、様々な調査技法（質問票調査、インタビュー調査など）や研究倫理を概観しながら観光現象に関わる調査方法について解説する。
ホスピタリティマーケティング論	この講義では1・2年次に学んだ観光学概論や経営学のマーケティングに関する基礎知識を踏まえ、観光産業やホスピタリティ産業の経営全般について、その現代マーケティング理論がどのような役割と関連性を持っているのかについて概論的に理解する。週に2回連続授業を行う。
観光交通論	本講義は2年次以上の学生を対象として、観光交通の理論及び観光地における交通の役割を体系的に学ぶ。観光及び交通地理、交通手段の発達が観光地に与える影響、観光客と地域住民の領域が重複する観光地における交通の計画づくりなどについて学ぶことで、観光交通に関する理解を深める。
沖縄観光	本講義は、沖縄観光の現状と問題点、課題について、マーケットの現状、観光消費が沖縄経済に波及する効果、沖縄観光の受入体制の推移、沖縄観光を取り巻く全国的な旅行市場の動向、観光地の動向等の解説を加えながら、その把握手法について講義する。
レジャー・レクリエーション論	現代社会においてレジャー・レクリエーション活動は、国民生活の重要な課題になってきている。本授業では、レジャー・レクリエーションの重要性について理解し、労働とレジャー、観光との関係について検討する。また、レジャー・レクリエーションの成立の背景と現代的意義、機能について習得する。さらに、国内外のレジャー・レクリエーション産業と活動の現状を紹介し、レジャー・レクリエーションの未来と課題について具体的に考察する。
行政法	現代福祉国家において、市民生活に対する国家の行政的介入が増大している今日では、多種多様な行政活動に関する法分野の基礎知識を習得する重要性はますます高まっている。本科目では、主として沖縄県庁や市役所・町村役場における身近な行政活動を素材としながら、行政「組織」法・行政「作用」法・行政「救済」法という、行政法に関する基礎知識をなるべく分かり易くお話する予定である。また、規制緩和、公務員制度改革、郵政民営化、市町村合併等に見られる近年のわが国の行財政改革等にも可能な限り触れていきたい。

I 建学の精神

II 学修について

III 学修計画の作成と登録制の作成

IV 教養教育について

V 国際学部の概要

VI 国際文化学科の概要

VII 国際観光産業の概要

VIII 留学・資格等について

IX 諸手続きについて

X 学則・諸規程

XI 付録

授業科目名	講義等の内容
財政学	<p>財政は、現代社会における政府の貨幣活動である。中央政府と地方政府は、集めた税金＝貨幣を用い、国民の生活に不可欠な道路、橋、港湾などの公共施設の建設から、教育、医療や社会保障などの福祉サービスを提供している。財政学は、政府の貨幣活動を、財政の仕組み、税の意味、税の徴収と経済への影響などを学ぶ。</p>
国際経済論	<p>国際経済学は、私たちの生活が、国際的な経済活動を通じてどのようなつながりや影響があるかを学ぶ。貿易が発生する仕組みとメリット、2国間で輸出入が行われる理由と影響を与えることがら、円やドルの交換比率である為替レートや国際通貨が輸出入に与える影響、国際的な貿易政策の現状と課題を学ぶ。</p>
地方自治論	<p>地方分権の流れとともに地方自治体をめぐる出来事をメディアで取り上げることが多くなっている。「地方自治の実践は民主主義の最良の学校」とも言われるが、現代日本においてはどのように実践されているのだろうか。本授業では、地方自治の仕組みについて説明するとともに、地方自治体において争点となっている具体的な案件を紹介する。授業中には、理解の促進のため、授業で紹介した案件について受講生によるディスカッションも行う。</p>
市場調査論	<p>市場調査論（マーケティング・リサーチ）は、企業戦略やマーケティング戦略における諸問題を識別、把握、解決するために必要な情報を探索・収集して分析する手法の一つである。この講義では、市場調査の基本概念から、データ収集方法、分析手法、そして報告書の作成について学ぶことを目的とする。</p>
経済政策	<p>経済政策は、私達の生活にとって望ましい経済と社会を実現するための政府の活動である。望ましい経済と社会と問題となっている経済と社会を比較し、どこに問題があるのかを理論や理想的な社会と問題となっている社会の比較や理論や理想的な社会の共通性から診断を行い、望ましい社会が実現するまでの道筋や方法を学ぶ。</p>
地域マーケティング論	<p>都市・地域再生やまちづくりについて、マーケティングの理論を援用しつつ、現状と課題、今後の取り組みについて理解することが本講義の大きな目的である。近年の人口減少と少子高齢化社会の中で、多くの都市や地域が活性化、再生、まちづくりというキーワードを掲げ、様々な取り組みにも関わらず疲弊する一途である一方で、活性化への活路を見出しているところもある。このような都市・地域が抱える問題や取り組みについて、理論と実践の両面より受講生の皆さんと一緒に考えていくことを目的とする。</p>
日本の歴史Ⅰ	<p>日本は古来より海外との交流を通して、政治体制を整え、文化を育んできた。そのため、日本の歴史を理解する上では海外との関係の歴史（対外関係史）の視座が不可欠である。この講義では、前近代の日本国内の政治・社会の状況を対外関係史と関連づけながら、日本史への深い理解を目指す。</p>
日本の歴史Ⅱ	<p>本講義では、近現代の日本の歴史を扱う。政治・外交・文化といった側面から幕末以降の150年余の歴史を見ることで、私たちが生きる今の日本がどのように形成されていったのかを知り、世界の国々との現在の関係がどのように築かれてきたのかを学ぶ。</p>
世界の歴史	<p>主として15世紀から19世紀のヨーロッパの歴史を取り扱い、史資料の読解能力と歴史的事象の意義の理解の修得をめざす。史資料の分析・読解に基づいた世界史の知識の修得とともに、歴史的事象の意義に課する深い理解が求められる。</p>

専門発展・応用科目（観光経営科目）

授業科目名	講義等の内容
観光産業論	観光産業の現状と全般的な課題、個別観光産業の特性や問題点等を学習する。観光産業は、観光に関わる個別産業の総称であり、その事業内容や特性は各産業により大きく異なっている。本講義においては、まず観光産業を構成する個別産業（交通、宿泊、旅行、イベント、アトラクションなど）の活動実態を概観したうえで、これら産業に共通する企業経営上の重要課題やトピックスについて学習を進める。
交通産業論	本講義は3年次以上の学生を対象として、交通産業における理論及び観光に関する交通産業の役割を体系的に学ぶ。主に、航空産業及び陸上交通産業を中心に解説し、観光における交通産業の役割と重要性に関する理解を深める。まとめとして地域における交通の役割を詳述し、これからの交通産業のあり方を考える。
ホスピタリティ概論	一般にホスピタリティは「おもてなし」「思いやり」「顧客満足」などの様々な捕らえ方から種々の表現がなされているが、日本語の一語では表現できないほど多くの意味を内包している。本講義では不安の除去、自立・対等・連携などをキーワードとした人と人、人とモノ、人と自然との共生を視野にした相関関係について、その語源、歴史などから本来の意味を紐解き、未来のホスピタリティを基盤とした社会の形成についても考え、ホテル経営とホスピタリティとの関係について概説する。
ホテル経営論	ホスピタリティ産業の総合体として位置づけられる宿泊業（ホテル・旅館など）について、その発展と歴史と運営の知識、ホテル経営の特性と現状、課題などを概説する。 21世紀を迎え、ますます成長、発展する日本国内、そして沖縄のホテル産業を現在から将来について様々な観点から学び、ホテルビジネスを取り巻く具体的な変化や影響を理解する。
ホテル計画論	21世紀を迎え、ますます生活環境が大きく変化し需要が多様化する時代に対応するホテルづくりの基礎理論を学び、「夢のホテル、マイプラン作成」を、グループワークを通して具体的に履修する。レストランやブティックなどの事業計画にも幅広く応用される理論であり、起業を志す学生にも受講を奨励する。
旅行業経営論	旅行業務に関する取引の公正を確保するため、国家試験に合格した有資格者が旅行業者各営業所に配置されなければならない。この講義では、国土交通省が行う「国内旅行業務取扱管理者」の国家試験対策を行い、試験に合格することを目標とする。試験科目である旅行業法令、旅行業約款、国内旅行実務を学ぶ。
旅行業法と約款	旅行業務に関する取引の公正を確保するため、国家試験に合格した有資格者が旅行業者各営業所に配置されなければならない。この講義は、国土交通省が行う「国内旅行業務取扱管理者」の国家試験対策を行い、試験に合格することを目標とする。試験直前のこの集中講義では、練習問題や過去問題を行い、合格のためのテクニックを身につける。

授業科目名	講義等の内容
ホスピタリティ マネジメント論	ホスピタリティ関連企業における経営の基礎理論を学ぶ。導入として、研究対象であるホスピタリティ関連企業の特性について考察する。また、今日では一般企業や各種団体などの経営（運営）においてもホスピタリティが重要視されているが、その現状や課題などについて事例を挙げて論じる。
上級簿記	多様な利害関係者を有し、複雑な取引が多くみられる株式会社を対象とした複式簿記の知識と技法を習得することを目的とする。株式会社の仕組みや取引について簿記を通して理解するとともに、株式会社が公表する財務諸表を理解し、将来、株主、債権者、経営者などの立場で企業分析を行う際の基礎知識を養うことを目標とする。
会社法	会社法の基本的構造、基本判例及び学説等の基本的知識を確実に理解することを一義的な目的とし、加えて最先端のトピックスについても適宜とりあげつつ、実践的な思考力を涵養する。
流通論	生産から消費までの流過程における基本的原理を理解する事、流通の中でも特に商業を取り上げ、業態の発展、そして都市や地域との関連性について学ぶことを目的とする。
マーケティング論	マーケティングとは企業や非営利組織が行う対市場活動である。まずマーケティングの基本原理やマッカーシーの4P（Product、Price、Place、Promotion）理論を説明し、企業が我々消費者に対し行っている活動を理解する。さらに、サービス経済化やグローバル化など、現代企業が抱える独自の問題にも焦点をあてていく。
中小企業論	わが国の企業数の大半を占めるのが、中小企業である。目まぐるしく進化するICT技術やグローバルに展開される企業競争によって、競争激化の様相となっている環境のなかで、中小企業について様々な角度から実態を把握することで、理解を深めていく。
原価計算	簿記原理（商業簿記）を履修した学生を対象に、その応用として製造業において必須となった工業簿記及び原価計算の知識と技法を修得することを目的とする。
経営組織論	組織とは、ある目的を持った人々の協働体系であるが、現代の経済社会において存在意義や構造、特有の問題などについて学ぶ。なかでも特に企業組織の構造と特性、そして組織内部の過程（組織と構成員との関係や意思決定の流れ）、さらに組織と経営環境や経営戦略とのかわりについて、いくつかの組織理論を事例研究と照らし合わせながら実態的に学んでいく。
経営戦略論	企業において競合他社との競争は、自らの企業の存続・成長・発展を左右するほど重要なものと考えられる。そこで、企業における競争の戦略、成長の戦略とは何か、また戦略を考えていく上で企業が考えなければならない環境とは何か、などについて講義を行う。
会計学原理	簿記原理において日々の取引の会計処理から財務諸表の作成方法までを修得した学生に対して、財務諸表利用者、すなわち株主・債権者・経営者、そして就職先を探す学生の立場から財務諸表の読み方を学ぶ。また、企業活動のグローバル化を背景に、会計基準がグローバル化する現状も取り上げる。

授業科目名	講義等の内容
ベンチャー ビジネス	経済の活性化、経済発展をもたらす原動力としてベンチャービジネスの創造とその鍵となる起業家活動に、大きな期待がよせられている。このような新しいビジネスの仕組みについて学ぶ。
経営管理論	経営管理論は経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報に関する分野を網羅し統括する管理論である。すなわち、ヒトに関して①人的資源管理論、モノは②生産管理論、カネについては③財務管理論、そして情報は④経営情報管理論という具合に4つの分野を中心に学んでいき、それらの総合的な視点で企業経営を経営管理するとはどういうことなのかを考えて行く。
問題解決の心理学	情報化社会の進展とともに、迅速で正確な意思決定を迫られる場面が増える一方で、氾濫する情報の中から適切な情報を選択し、関連づけ、創造的なアイデアを練り上げることが求められるようになってきた。様々な問題解決場面における個人の思考プロセス、さらに集団による意思決定のダイナミックスを検討する。また効果的な問題の整理・解決の技法等についても学習する。
人的資源管理論	本講義では、4つの経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）のうち、ヒトにポイントを絞って、理論だけでなく現代的トピックも織り交ぜながら学ぶ。また、座学だけでなく、受講人数に応じてグループ分けし、それぞれで決められたテーマから選んでグループ学習も行う。
グローバル・ ビジネス論	企業活動の拠点として、市場の対象（販売先）あるいは供給先として「海外」が注目されていることは周知の事実となっている。そこで企業における「海外」活動つまりグローバルなビジネスとは、どのような意味があり、どのような効果をもたらすのかについて学んでいく。
産業情報論	産業界では次々と革新される情報技術を用いて、積極的に改革を進めている。本講義では最新の情報技術を用いた情報システム化の動向を学習する。特にインターネットを中心とする情報ネットワーク化の飛躍的な発展に伴うオフィスや業務の形態に関しても学習する。
経営分析論	複式簿記の基本的知識と技能を修得した学生を対象に、企業の経営活動の良否の判断に役立つ経営分析の手法を学ぶ。具体的には、企業が公表する財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を用いて、安全性・収益性・成長性・生産性の分析を行う。
組織心理学	産業・組織場面における人間行動について、心理学的な観点から分析・考察することを目標とする。具体的には職業適性、キャリア発達と人材開発、職場内の対人行動や仕事への動機づけなど、産業・組織心理学研究の知見を紹介する。また、組織デザインの観点から組織風土とリーダーシップについても取り上げ、効果的な組織運営について論じる。
対人コミュニ ケーション論	情報化社会においても対人コミュニケーションの重要性は変わらない。この授業科目では、他者の意見や行動を変え、他者の持つ印象を操作し、他者を欺き、他者と交渉し、他者とのうわさを楽しむといった対人コミュニケーション研究に焦点を当て、専門用語及び理論展開について論じる。

I 建学の精神

II 学修について

III 履修計画の作成と登録制度

IV 教養教育について

V 国際学部の概要

VI 国際文化学科の概要

VII 国際観光産業学科の概要

VIII 留学・資格等について

IX 諸手続きについて

X 学則・諸規程

XI 付録

授業科目名	講義等の内容
チームマネジメントの心理学	この授業科目では、産業・組織心理学的観点からチームマネジメントについて検討する。社会人基礎力の主たる要素として強調されるようになった「チームで働く力」について、リーダーシップ、モチベーション、コンピテンシーなどの概念と結びつけながら具体的に考察していく。さらに実践を通して、チームマネジメントのための課題分析とリーダーシップの向上を目指す。
職業指導Ⅰ	生徒への職業指導を行うにあたって役立つ知識と実践技術の修得を目的とする。生徒自身が「進路を想像する力」を発揮できるような教師の支援について学ぶとともに、キャリア教育についても考えていく。
職業指導Ⅱ	「職業指導Ⅰ」での学びを踏まえて、学校現場で求められる職業指導、キャリア教育を自ら考え、体系的に組み立て、指導内容や方法をカリキュラムに反映させ、実行可能性について考えていく。

専門発展・応用科目（観光文化・環境科目）

授業科目名	講義等の内容
健康と長寿	健康な状態で長生きしたいということは多くの人々の共通の願いであり、これから生きていく上で重要な課題になっている。本講義では、健康と長寿に関する理解と現代社会における健康と長寿の重要性について検討する。また、健康長寿の秘訣を食文化、生活習慣、生き方等の観点から説明する。さらに、ヘルスツーリズム、ウェルネスツーリズム、メディカルツーリズムに関する知識を習得し、健康とツーリズムの関係について理解する。
余暇社会学	この授業では、現代社会における余暇の意味と機能等を社会的な観点から学ぶ。また、余暇と労働の関係、余暇の社会理論、近代、脱近代における余暇の意義について理解する。さらに、余暇と観光の関係、観光社会学について学習する。
地球の環境とその保全	地球規模や地域レベルの環境問題が深刻になり、いまや環境問題は各国や地方自治体の政策決定にも重要な影響を及ぼしつつある。いわゆる環境問題といわれるものは人間と環境との関わり方の問題であり、この問題の解決には人間が自然環境を理解し、如何にこれら環境に接していくかが重要である。本講義では自然環境を保全して行くにはどうすればよいのか考えて行く。
エコツーリズムⅠ	エコツーリズム (Ecotourism) はEcology (生態学) とTourism (観光) を組み合わせた造語である。一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り・学び、自然・文化の保護・保全と地域の振興に寄与する観光形態」と理解される体験型の観光を示す概念である。本講義では、エコツーリズムの基本的な概念及び持続可能性や地域の取り組み等に対しての理解を深めることを目的として行われる。
エコツーリズムⅡ	本講義では、「エコツーリズムⅠ」の発展科目としてエコツアーの体験(野外講義)や実務家(自然体験事業者等)の講義も加えることにより、エコツーリズムの理解を更に深めることを目的として行われる。エコツアー体験(野外講義)では、沖縄ならではの特徴的な体験することにより、沖縄県のエコツーリズムの取り組みについても理解を深める。

授業科目名	講義等の内容
自然観察指導法	自然観察を指導するインタープリターには、多様な参加者と観察対象の状況に配慮した安全で内容豊富な適切なインタープリテーションが求められる。多様な自然環境の中で、何を対象として取り上げるか、興味深く解りやすいインタープリテーションが出来るかが重要である。本講義では、座学と野外講義により、自然解説やインタープリテーションの理解を深める。
環境アセスメント論Ⅰ	国内外における環境アセスメント制度の成立背景と経緯・趣旨を解説し、現行の制度とその意義、さらに運用の現状と今後の課題について講義する。
環境アセスメント論Ⅱ	環境アセスメント制度が立脚する環境関連法制度と、環境影響評価で用いられる基本的な環境測定及び影響予測のための技術体系について、国内外における環境アセスメントの事例を参照しながら現状と今後の課題について解説する。
環境調査法	環境について様々な側面から理解するために用いられる測定・分析の方法と、それらの特徴・適用性について講義する。さらに、実習を通してこれら測定技術を身につけるとともに環境を科学的に分析・記録・考察する姿勢を学習する。
観光文化論	観光は今や地球規模の巨大現象であり、その経済的効果は莫大なものである。また、その影響力は新たな文化の創造という局面にまで及んでいる。本講義では、観光を生み出す仕方、観光によって作り出される文化、観光が当該社会に与える社会的・文化的影響など、観光と文化との関係を多角的な観点から考察する。
沖縄の植物と保護	1) 琉球列島の自然環境の概要、2) 植物分類学・生態学の基礎、3) 琉球列島の維管束植物、4) 沖縄県の植物の保護についての理解を深め、植物と人間の生活のかかわりについて考察する。
島嶼文化論	地球上で我々人間は様々な場所で様々な生を営みながら、多様な社会や文化、歴史などを育んできている。本講義は我々が生み出している文化の多様性に着目し、その地域的特性を示しつつ、各典型例の比較対照を行うものである。特に、我々と密接に関わりのある生活文化に関する映像資料なども駆使しながら、沖縄を足がかりに日本(本土)、韓国、中国、東南アジアなど、様々な地域に生きる人々の文化を紐解いていき、文化の多様性の認識と異文化への理解を深めていくのが講義の最大の目標である。
比較宗教論	世界各地の宗教を比較することで、その特質を明らかにする。各宗教の教義の概要やなりたち、発展の歴史、さらには現代社会における状況などについて、比較の視点を織り交ぜながら解説する。教義の違いというだけでなく、宗教を取り巻く社会状況も含めた広い視野からみることで、現代社会における宗教問題に対する理解を深め、宗教とはなにかについて考える。
日本史史料講読	史料とは歴史研究の素材となるもののことで、文書、遺物、伝承、建築など様々なものを含む。この講義では、それら史料のうち、古文書、古記録(日記など)、絵図などを主にとりあげる。史料の読解を通して、歴史を暗記するのではなく、歴史を考える楽しみを知ってもらいたい。なお、史料の読解に必要な漢文の読み方についても、若干の解説を行う。
日本の宗教	日本に現在行われている宗教・信仰について概観する。それぞれの宗教がどのように生じて、どのような内容の下、どのようなものを生み出してきたのか、またそれぞれがどのように関連しあっているのかについて、とくに民俗学的・宗教社会学的立場から解説する。

I 建学の精神
II 学修について
III 履修計画の作成と登録制度
IV 教養教育について
V 国際学部の概要
VI 国際文化学科の概要
VII 国際観光産業学科の概要
VIII 留学・資格等について
IX 諸手続きについて
X 学則・諸規程
XI 付録

専門発展・応用科目（国際観光科目）

授業科目名	講義等の内容
国際観光論	<p>いまや世界中で多くの者が外国旅行をしており、今後もさらに拡大することが予想されている。今日の日本では国際観光というとインバウンド旅行が連想されるが、国際観光は相互の往来、即ちインバウンドとアウトバウンドの両方を指すものである。このような国際観光は、ある国や地域の国際化をはじめ、経済効果、国際相互理解を促進し、世界平和へ貢献するものと期待されており、各国が国際観光の振興に力を入れている。本科目においては、国際観光の基礎や仕組みについて学ぶと共に、地域における国際観光のあり方について考える。</p>
観光実用中国語	<p>この授業は、観光産業のさまざまな場面でホストとして観光旅行者と円滑にコミュニケーションを図ることができる柔軟な対応能力を養うことに主眼をおく。授業では、「ホテル」、「レストラン」、「旅行会社」、「レンタカーショップ」、「免税店や土産物店」などの接客場面を想定し、そのような場で行われる応対に関連する語彙や表現法などを学習し、自らも情報を発信できる能力を高めていく。本授業では、それまでに培ってきた中国語のスキルを十分に発揮することが望まれる。</p>
観光実用韓国語	<p>この授業は、観光産業のさまざまな場面でホストとして観光旅行者と円滑にコミュニケーションを図ることができる柔軟な対応能力を養うことに主眼をおく。授業では、「ホテル」、「レストラン」、「旅行会社」、「レンタカーショップ」、「免税店や土産物店」などの接客場面を想定し、そのような場で行われる応対に関連する語彙や表現法などを学習し、自らも情報を発信できる能力を高めていく。本授業では、それまでに培ってきた韓国語のスキルを十分に発揮することが望まれる。</p>
観光実用英語Ⅰ	<p>観光業界の現場で必要とされる英語運用能力について教授し指導する。講義では主として聴解力と英語による意思伝達能力を養成することを目標に掲げて指導を行う。受講生には、あらかじめ各単元で扱う必須の語彙や表現に関して状況に即した事例を示して理解を深めさせ、それを足がかりにして聴解力と意思伝達能力の向上を促す応用練習を継続して課す。</p>
観光実用英語Ⅱ	<p>先行する観光実用英語Ⅰと教授内容において連続性を共有する。但し、本講義の各単元で扱う語彙や表現、またそれらに連動する種々の応用練習の項目は、観光実用英語Ⅰで扱う内容と重複するものではない。講義を進めるにあたっては、随時一口メモのコーナーを設け、英語と日本語の本来の相違点に言及し、受講生に注意を喚起させる。この試みは先行する観光実用英語Ⅰでも同様に実施する。</p>
アジアの歴史	<p>海域という視点から、東南アジアを中心としたアジアの歴史を講義する。前半は前近代の海の交易世界をとりあげて様々な地域との間の文化、人間、商品の交流により、多様性を持った社会が形成される過程について論じ、後半には近代の植民地化により現在の国境線がひかれ、そこから言語や宗教を異にする多くの民族が共存する国家が形成される過程を論じる。</p>

授業科目名	講義等の内容
中南米の歴史	本講義では、中南米諸国の歴史を古代文明、植民地時代、独立以降と大別し、通史的に学んでいく。また、大航海時代に世界各地へと乗り出したヨーロッパ側の視点も踏まえ、植民地時代の支配と従属の関係、奴隷制度など、中南米地域が政治・経済の世界システムへと組み込まれていった背景を考察する。
外書講読	外国語で記された文献等を用いて、各専門領域における理論や事例等を学ぶ。併せて、専門用語や言い回し等を学びながら、各専門領域の理解を深める。本講義は、読解力の向上よりも、各専門領域に関する知識の拡充並びに理解を深めることを目指すものである。また、本講義の受講に関しては、外国語で各専門領域に関する書物等を精読する。

専門発展・応用科目（実践科目）

授業科目名	講義等の内容
インターンシップⅠ	観光分野は実務を経験し、理論と実践を融合することが大切である。本科目では学生自らが実践の場（観光関連企業、研究所等）を応募・選択し、インターンシップ体験を通して、大学で学ぶ講義の内容が現場でどのように活用されているかを理解する。本科目では3日以上インターンシップが対象である。
インターンシップⅡ	観光分野は実務を経験し、理論と実践を融合することが大切である。本科目では学生自らが実践の場（観光関連企業、研究所等）を応募・選択し、インターンシップ体験を通して、大学で学ぶ講義の内容が現場でどのように活用されているかを理解する。本科目では5日以上インターンシップが対象である。
海外インターンシップ	海外の企業などで一定期間研修を行うことにより、国際感覚と語学力を養い、ビジネスマナーや職業意識を身につける。事前学習として海外研修のために必要な予備知識・能力を得るための授業を行うとともに、国内企業での事前研修も実施する。なお、派遣学生は選考の上決定する。
ホテル実務	ホテル業は観光ホスピタリティ産業の中核であり、そこに従事するホテリイは幅広い知識と教養に加え、専門的な実務能力を有していなければならない。そのための機会を提供すべく、沖縄県内の複数の著名ホテルと提携した。これら提携先ホテルにおいて基本実務を体験的に学び、最終的にレポートにまとめる。
観光関連実務	観光関連企業等での長期間の実習を通し、現場の実務経験により観光関連企業等への理解を深め、観光産業の発展に貢献できる人材育成をすることを目的として実施する。これにより、「理論」と「実践」を備えた、観光業界のニーズに対応できる学生を育成する。

専門発展・応用科目（観光関連科目）

授業科目名	講義等の内容
スクーバダイビング	本講習はダイビングが初めてという人のための入門コースである。講習カリキュラムは、①学科講習、②限定水域実習（浅瀬での訓練）、③海洋実習（オープンウォーター）から構成されている。規定の講習を修了すると、PADIスクーバダイバーのCカード（認定証）が取得できる。
ウェルネス概論	ヘルス・フォー・オールの実現するために不可欠な21世紀の健康戦略としてのヘルスプロモーション・ウエルネスとPHC（Primary Health Care）について概説し、21世紀に向けた健康社会実現への健康思想の構築を図る。また、沖縄県で全国に先駆けて行っているドルフィンセラピーについても解説する。ヘルスプロモーション・ウエルネスの理論を学び、健康社会構築のマネジメント力を身につける。
スポーツ産業論	スポーツに親しむ人々の動機や目的も「健康志向」が目立ってきており、従来のスポーツ産業と健康産業がクロスオーバーする新たな「健康スポーツ産業」の領域が生まれた。スポーツ経営学を基盤にし、産業としての健康スポーツ施設経営の現状と課題について学ぶ。
ゴルフⅠ	ゴルフの初級コースである。大北ゴルフ練習場において、スイングの基本を身につけるためテーマ別にレッスンを組み立てる。ゴルフのスコアメイクに最も重要な技術であるアプローチ方法のピッチ＆ラン（ピッチング）などの各種アプローチショット、グリーン上におけるパッティング（パター）、砂場から放つバンカーショットの技術習得に努めるとともに、スイングの基本であるボディターンを身につけ、効率よいスイングプレーンを習得する。
ゴルフⅡ	前学期に学んだゴルフⅠを踏まえたゴルフの中級コースである。大北ゴルフ練習場において、スイングの基本を復習・完成させるためにテーマ別にレッスンを組み立てる。ミドルアイアン（7番）のショット、アプローチのテクニック、ランニングアプローチ、フェアウエーウッド、ドライバーにけるスイング及びショットの完成度を高め、目標に向け正確にショットできることを目指す。
空手	沖縄が発祥の地である空手道について、その歴史的背景と文化的背景を講義し、実技指導を通して実践的に空手道を学び学校教育の中でも指導できる能力を養成する。活力ある国際社会の形成者として時代の変化に対応し得る教育の方法を追求する。実技を通して健康の維持・増進や体力の向上を図る。講義と実技を併用して実施する旨、トレーニングウェアで参加する（空手道着が望ましい）。講義及び実技は体育館にて行う（講義については必要に応じて資料配付）。
救急処置	生活の中での思わぬ事故・ケガ、または体育・スポーツ活動中の事故・ケガに対し、応急処置の知識があれば適切な対応が可能である。本講義は応急処置の基本から実践までを学ぶ。

専門発展・応用科目 (特別講義)

授業科目名	講義等の内容
国際学部特別講義	国際社会で活躍している研究者や実務家を広く学内外から招聘し、学際的な研究事例、最新の社会動向などについて紹介する。なお、開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際観光産業特別講義Ⅰ	国際観光産業学科に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際観光産業特別講義Ⅱ	国際観光産業学科に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際観光産業特別講義Ⅲ	国際観光産業学科に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。
国際観光産業特別講義Ⅳ	国際観光産業学科に関わる専門研究領域の研究者や実務家を学内外から招聘し、当該学術分野における最新の研究事例や社会動向を紹介する。なお開催年度ごとに講義テーマや講師が異なる場合がある。

演習科目

授業科目名	講義等の内容
国際観光産業基礎演習	国際観光産業学科学生のためのガイダンス科目である。当専攻は観光政策・ビジネス、環境・エコツーリズム、観光文化の3つのコースが設定されている。各コースの特色、科目の内容、育成する人材像等について講義し、その後専任教員の研究分野などを説明した上でミニゼミを受講生に選んでもらい数回のゼミ活動を行う。全体として、国際観光産業の現状と課題について理解を深め、3年次から始まる専攻科目等に対応できるよう、基本的な姿勢と学習方法について学ぶ。
国際観光産業専門演習Ⅰ	文献講読やフィールドワークにより専門的知識と研究手法について学習する。
国際観光産業専門演習Ⅱ	文献講読やフィールドワークにより専門的知識と研究手法について学習する。卒業研究のテーマを検討する。
国際観光産業専門演習Ⅲ	文献講読やフィールドワークにより専門的知識と研究手法について学習する。卒業研究のテーマを検討する。

授業科目名	講義等の内容
国際観光産業専門演習Ⅳ	文献講読やフィールドワークにより専門的知識と研究手法について学習する。卒業研究のための資料収集、フィールド調査、論理の組み立て方、文章の書き方などについて学ぶ。卒業研究の中間発表を行う。
国際観光産業専門演習Ⅴ	各研究室の研究分野に沿ったテーマの卒業研究を実施する。研究成果を論文としてまとめる。学生が主体的に研究活動を行い、進捗状況の確認と結果に関する議論を行う。卒業研究の最終発表を行う。